

【単元を貫く問い】 10のまとまりをつくれれば、どんなたしざんでもこたえがだせるかな。

この単元と関連した領域の付いている力(◆)と内容(・)

[第1学年]

- ◆一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、他の数と関係づけてみる力
- ◆加法の意味について理解し、場面を式に表す力
  - ・加法、減法の意味
  - ・繰り上がりのないたし算
  - ・足し算の場面の式の読み取り
  - ・繰り上がりのないたし算の活用

本単元の目標

学びに向かう力、人間性等

数量に親しみ、算数で学んだことの良さや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

単元終了時のめざす児童の姿

- ・加法の意味について理解し、それらが用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
- ・簡単な場合について、2位数などの加法ができる。
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり日常生活で生かしたりすることができる。

知識及び技能

- ・加法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ることができる。
- ・加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
- ・1位数と1位数との加法の計算が確実にできる。

思考力・判断力・表現力等

- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすることができる。

この単元からつながっている領域の付きたい力(◆)と内容(・)

- [第2学年]
- ◆2位数の加法の計算とそれらの筆算の仕方、加法が成り立つ性質、加法及び減法との相互関係を理解し、数量関係に着目して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力
    - ・たし算とひき算の筆算
    - ・3けたの数
- [第3学年]
- ◆3位数や4位数の加法の計算とその筆算の仕方を理解し、数量関係に着目して計算が成り立つ性質を活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力
    - ・3位数・4位数の筆算
- [第4学年]
- ・小数の加法
  - ・同分母の分数の加法
- [第5学年]
- ・異分母の加法

他教科等との関連

- ・生活科 秋見つけ
- ・体育科 たま入れ

数学的活動

問題解決の過程や結果を、ブロックや図などを用いて表現する活動

日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動

身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして数量を見い出す活動

問い

【4時間】

- たしざんのこたえが10より大きくなる時、どんな方法で計算するいいのかな。
- 1位どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法を考える。
  - 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。

問い

【2時間】

- たされる数が小さい時にはどんな計算の仕方になるのだろうか。
- 1位どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法を知り、計算の仕方について考える。【本時】
  - 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数・加数を分解する方法を理解し、計算を確実にする。

問い

【3時間】

- 計算カードをならべるとどんなきまりがあるのかな。
- 計算カードが全部あるか確かめるために順番通りにならべる。
  - カードを使って答えの大きさをくらべをする。
  - 答えの数の並び方を見て、気づいたことを話し合う。

問い

【1時間】

- 生活場面でくり上がりのあるたし算を使って問題を解決しよう。
- 身の回りの数に着目して、繰り上がりのたし算になる場面を考え、問題を作り、解決する。

働かせている児童の姿

・10のまとまりをつくることこれまでの計算を使って計算することができるということを考えている姿。

・加数を分解する場合と被加数を分解する場合の2つの方法があることに気づき、その計算の仕方を考えている姿。

・計算カードを順番に並べたときに、たす数とたされる数の増え方や減り方にきまりがあることに気づいている姿

・日常生活の問題を具体物や図を用いて考え、解決している姿。

評価規準

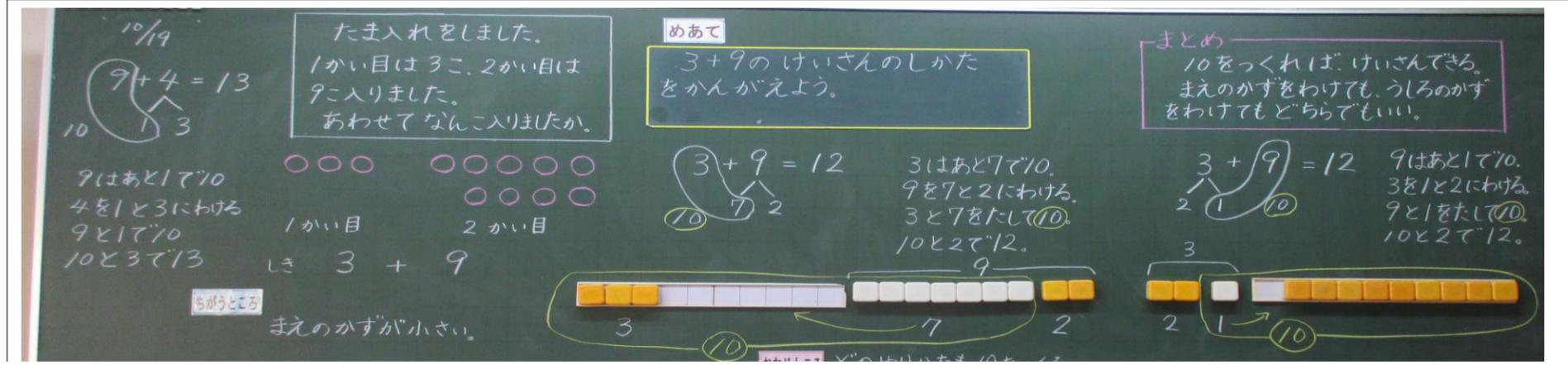
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。	・10のまとまりに着目し、1位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。	・1位数どうしの加法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

児童の実態と指導観

1年生になり、数の構成を具体物やブロックを使って学習を続けてきた。また絵・数字・点図カードを使って数を一致させるゲームや大小を比べるゲームを行ってきたが、数に対する感覚には個人差が見られた。

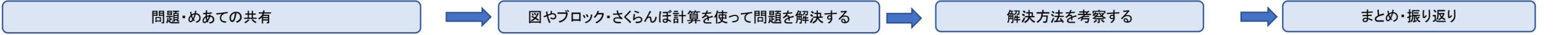
児童はこれまで、1桁どうしの繰り上がりのないたし算を学習している。1学期の市販のテストではたし算の学級平均97点と市販テストでは得点を取ることができていたが、その後引き算の学習に入り、たし算・ひき算の計算の意味が混ざってしまっていて文章問題などでも苦手意識を持つ児童もいる。また、1学期に取り組んだ計算カードでの計算の練習をこつこつとまじめに行い、力をつけている児童は計算のスピードも速くなってきている。

本単元では、はじめて繰り上がりのたし算の学習を行う。ここでは、10のまとまりを意識して計算する方法を考えさせ、既習の計算を使って課題を解決させていく。9月に入り、大きな数の学習で「10と2で12」など10と1位数のたし算を行っている。本単元の基礎になっているので、この既習の計算もひかりタイムなどで復習をしながら単元の学習に入っていきたい。



◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫  
 計算の方法を考える際、計算ブロックや絵、図などを組み合わせて、自分の考えを持たせるようにする。そして、計算の仕方の考え方を伝え合う活動を取り入れていきたい。

◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て  
 体育の時間に行った玉入れの経験を思い出し、1回目と2回目の数を足すことを理解させる。式を立てると3+9になりこれまでの数とは加数と被加数の大小がこれまでと変わっていることに気づかせる。その場合でも既習の計算で求めることができるように、加数や被加数を分解して10のまとまりをつくることを考えさせる。



T 9+4はどうやって計算したかな。  
 C 9はあと1で10だから、4を1と3にわけた。  
 C 10と3で13になった。  
 C 10をつくったら計算できたね。

問題 たま入れをしました。1かい目に3こ入りました。2かい目は9こ入りました。あわせてなんこ入りましたか。

C たしざんになる。  
 C しきは3+9になる。  
 T これまでのたしざんのしきとちがうところはどこかな。  
 C まえのかず(たされるかず)が小さい。  
 C うしろのかず(たすかず)が大きいかずになっている。

めあて 3+9のけいさんのしかたをかんがえよう。

T どんなけいさんのしかたになるのか、考えてみましょう。

3 + 9 = 12  
 10 7 2

ブロック図

3はあと7で10。  
 9を7と2にわける。  
 3と7で10。  
 10と2で12。

3 + 9 = 12  
 2 1 10

ブロック図

9はあと1で10。  
 3を2と1にわける。  
 1と9で10。  
 2と10で12。

T 二つの方法で気づいたことを話し合ひましょう。  
 C こたえがおなじになっている。  
 C 3+9の9を分けるほうはまえの数を10にしている。  
 C 3+9の3を分けるほうはうしろの数を10にしている。  
 C 9に1をたして10にするほうはブロックを少し動かすと答えが出る。  
 C どっちでも計算することができている。

T 2つの計算の仕方では似ているところはどこかな。  
 C 10をつくっている。  
 C 3か9のどちらかを10にしている  
 C さいごは10と残ったかずをたしている。

T 今日のたし算の学習でどんなことが分かりましたか。  
 C 前の数が小さい数でも計算することができる。  
 C 10をつくれば、計算できた。

まとめ  
 10をつくれば計算できる。  
 前の数をわけても後ろの数を分けてもいい。

<本時で目指す児童の姿>  
 図やブロックを使って考えることで、たす数、たされる数のどちらかをわけて10をつくり計算する方法を説明できる姿

〔指導上の留意点〕  
 ・これまでのたし算の計算の仕方を導入で復習し、本時の式との違いに気が付くようにするため被加数が小さくなっていることに気づかせる。

〔指導上の留意点〕  
 ・計算の仕方を考えたり、工夫したりする時間をとり、説明の仕方を考えさせる。

〔指導上の留意点〕  
 ・2つの方法で同じところやちがうところに目が向くようにえ・しき・説明を比べやすいように板書し、どちらも10のまとまりにしているところに気づかせる。

〔指導上の留意点〕

・被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。  
 【思・判・表】(発表・ノート)